

令元発三第 11674 号

令和 2 年 1 月 23 日

三木町就学前の子どもの教育・保育の
あり方検討委員会委員長 殿

三木町

町 長 伊 藤 良 春



三木町教育委員会

教育長 森 正 彦



三木町就学前の子どもの教育・保育のあり方の検討について（諮問）

三木町における今後の就学前の子どもの教育・保育のあり方について、三木町
就学前の子どもの教育・保育のあり方検討委員会の意見を求めたく、別紙理由書
のとおり、ここに諮問します。

『諮問理由書』

幼児期の教育・保育は、子どもたちが健やかに育ち、自分の力で生きていくための基礎を培う重要な時期であるなか、その教育・保育にあたる幼稚園・保育所などがそれぞれの特性を活かし、幼児期の子どもが心身ともに健やかに成長できるようにその環境を整えていくことが必要であると考えています。

幼稚園、保育所での生活は、子どもたちが初めて集団生活を経験する場ですが、女性の就労率の増加、少子高齢化や核家族化、地域社会や家庭の教育力の低下など、子どもを取り巻く環境が変化するとともに保護者ニーズも時代の変化に伴い多様化してきています。

本町でも公立幼稚園の園児数の減少が進む一方で、保育所への入所希望児童は増加するなか、令和元年10月1日では初めて保育所の待機児童が発生するなど、今後も保育需要に対する受け皿となる施設や保育士等不足が懸念されます。

一方、ししの子幼稚園・保育所を除く公立の幼稚園や保育所は、建築後24年から38年が経過しており、近い将来、老朽化や保育所の児童数増加による大規模な改修が必要となるなど、計画的な維持管理とともに、私立幼稚園・保育所と公立施設との調和のとれた適切な施設整備や教諭・保育士配置等の検討が必要となってきています。

このようなことから、喫緊の課題である待機児童の解消にむけた方策を検討していただくとともに、中・長期的な視点で本町における子どもたちを取り巻く環境、人口動態、教育・保育の需要見込み、施設の状況を勘案し、今後の幼児教育・保育のあり方について総合的な検討をしていただくよう諮問いたします。